



産休サンキュープロジェクト・ニュースレター

巡回診療の一日

2017年4月号

Vol. 8

日本赤十字社とケニア赤十字社は、ケニア地域保健強化事業(IHOP)の一環で巡回診療をしています。ところで、これまで何度か巡回診療の記事を掲載しましたが、みなさんは“巡回診療”と聞いて、どのようなイメージを思い浮かべますか？ 本号では、巡回診療に携わるスタッフの目線で、巡回診療の一日の流れをご紹介します。

巡回診療は毎月第2週の火曜～金曜に実施しています。ある金曜日、今日はガルバチュウラ地区エスコット村での巡回診療の日です。

曜日	場所
火	コクラ、ベルゲシュ
水	コンボラ、モゴレ
木	ビリキ
金	エスコット
土	タナ



1 まずは、ガルバチュウラ地区の中心地であるガルバチュウラ村で薬剤や診療カードを荷積みします。



2 巡回診療医療チーム(医師、看護師、薬剤師と事務職)が車両に乗り込みます。



5 診察を行う建物に村人が集まってきました。



3 未舗装道路を50km走ります。

4 約1時間半かけてやっと村に到着しました。



7 薬剤を並べて整理しています。

6 診察カードの準備をします。



次ページへつづく

「産休サンキュープロジェクト」とは

出産を機に、生まれたいのちと支えてくれる周囲の人に感謝し、日本で産休・育休を推進し、寄付によって 開発途上国の子どもとお母さんを支援し、一緒に子どもたちを育てていくプロジェクトです。

毎年4月・11月に発行されるニュースレターでは、ご支援いただいている事業報告のほか、親として共感できるような出産・育児の話、子どもを取り巻く保健リスク、日本での子育ての知識/子どものケガの手当と予防/疾病予防等を紹介していきます。

社内外のプロジェクト支援者への配布や、社内報等での啓発、あるいは貴社・貴団体のCSR活動報告等にご活用ください。

8

ようやく診察です。



診察を終え、ガルバチューラ村に戻ります。道中ではラクダの群れに遭遇することもあります。

9

ガルバチューラに戻りました。



10

ケニア国イシオロ州ガルバチューラ県のガルバチューラ地区とセリチョー地区には、近隣に医療施設のない村が7つ(コクラ、エスコット、ビリキ、モゴレ、ベルゲシュ、コンボラ、タナ)あります。

日本赤十字社とケニア赤十字社は、この7つの村に巡回診療を実施することで、これら2つの地区のすべての住民が医療サービスを受けられるようになりました。

事業地訪問を終えて..

産休サンキュープロジェクトにご協力いただいている
住友商事ナイロビ事務所所長の今井毅彦様からのメッセージ

2016年2月15日(月)から17日(水)にかけて、日本赤十字社(以下、日赤)の上田さんと二星さんに同行して、ガルバチューラ県を訪問しました。まずは、このような機会を頂いた事に感謝したいと思います。

今回の訪問を通じて強く感じた事は、日赤及びケニア赤十字社の方々が、情熱を持って、力を注いで、この取組みを推進されている事。またその一方で、その完遂が困難で、そしてそれに伴い日赤・ケニア赤十字社の方々が本当にご苦労されている事です。

2月16日(火)にガルバチューラ県立病院の手術棟を視察する機会がありました。この手術棟は赤十字が2015年8月に県立病院を管轄するカウンティ保健省に委譲したものであり、設備・機材ともに非常に立派な手術棟だと素人ながらに感じました。しかし、電力が不足するこのガルバチューラでは、手術中に停電になる脅威を恐れ、なかなか手術を実施出来ないというのです。

手術を安定的に行う為には発電機が必要であり、地方政府も中央政府から予算を獲得すべく試みている模様ですが、まだ実現には至っていません(*2)。早ければ2016年度の予算を獲得すべく、関係者で取り組んでいる事を聞きました。早く、予算を獲得でき、発電機が購入できる様になる事を強く望みます。また、小規模の手術は発電機がない場合でも速やかに開始していくとも聞きました。これにより、地域の住民の医療環境が大きく改善する事を願ってやみません。

また、同日にケニア赤十字社のボランティアスタッフによるヘルストークを視察しました。ボランティアの方が、小屋にて地域の母子に対して、丁寧に知識の伝授を行っている様子が印象的でした。医療施設が充分にないこの地域において、住民に正しい医療の知識を与える、この取組みが如何に地域社会・住民に貢献しているかを実感しました。こういう村では、もし病気になったら、近くの病院に行くまで何十キロと移動しなければなりませんが、

移動手段もロバなどで手遅れになる場合も少なくないのではと想像します。我々とは置かれている環境の違いの大きさに唖然としてみします。

また、地域の住民が少しでも医療に使える資金を増やせる様、住民が自分の事業を興し、軌道に乗せるまでの支援も行っていると知り、驚きました。この取組みは住民の意識のあり方によって結果に差が出てくる模様で、上手くいったり、そうでなかったりとまだ安定しないと聞きましたが、こういう形で地域社会の発展に貢献しようという赤十字の取組みの幅の広さに感銘を受けました。

今回の機会を通じて、これまで考えもしなかった事に目を向ける機会を得ました。我々は主にケニアの都市部でビジネスを行っていますが、ケニアの大部分の人たちを取り巻く環境がどのようなものか、非常に短い期間でしたが、実体験を通じて気づきと学びを得る事が出来ました。

ケニア北東部のガルバチューラ県の人々を支援する為に懸命に努力されている日赤、ケニア赤十字社の方々の努力には頭が下がります。これまで弊職は支援という形では駐在した国・地域と関わってきませんでしたが、規模は小さいながら、当社が産休サンキュープロジェクトに取り組んでいる事を喜ばしく思うと共に、たまたま日本人に生まれ、何不自由のない生活をしている我々は、医療を十分に受ける事が出来ず、常に命を落とすリスクを抱える例えばガルバチューラ県の村々に住む人々及び子ども達の生活が少しでも豊かになる様、事業及び支援を通じて、直接的及び間接的に取り組むべき立場にあるのではないかと感じました。



*2 : 2016年10月、発電機が導入されました。

「支援にかける想い」

～このプロジェクトへの参加企業様から～



＜大切なご友人、そしてアフリカの母子へ＞

株式会社ローズマロウズ様には、2016年度から「産休サンキュープロジェクト」にご参加いただいています。代表取締役の布施様にお会いしたのは2016年6月のこと。当プロジェクト参加にかける熱い想いを、日本赤十字社の職員に伝えていただきました。

布施様からのメッセージ

2016年7月、自社の新たな試みとして、ベビー用のマシュマロポンチョを発売することになりました。赤ちゃんの着心地はもちろんの事、お母さんにとっての利便性、プレゼントとして贈る方の気持ちなど、ただ可愛いだけじゃない、すべての人が幸せになるものを作りたいと、開発に5年間をかけました。

きっと喜んでもらえると確信できる商品が完成しましたが、日々目にする子供たちの悲しいニュース。

「この商品が届く幸せな子どももいれば、それとはほど遠く、辛い思いをしている子ども達も沢山いる。少しでも多くの人を幸せにできないだろうか？」

そう考えていた時に出会ったのが「産休サンキュープロジェクト」です。

海外に比べ表立って寄付をする事が得意とは言えない日本ですが、誰もがもっているであろう、困っている人は助けたいという気持ちと繋げようと思いました。

元気に生まれてきたお子さんや、その周りの方々の幸せを世界の人々で分かちあう。

そんな想いで、マシュマロポンチョの売り上げの一部を「産休サンキュープロジェクト」に寄付させていただいております。



マシュマロポンチョ

ご友人にポンチョをプレゼントした方からのメッセージ

「お祝いで長く使えるものを探していてぴったりだと思いました。プレゼントした相手にも喜ばれて、開発途上国の子育て支援にも繋がるのは、すばらしいアイデアだと思います」と話してくれたのは、ご自身も3人のお子さんをもつ、大田区在住の小幡様です。

「同じママとして、寄付金が出産費用や子育てに使われるのはとても嬉しいです」と続けます。

【編集後記】

出産を機に、生まれてくるいのちや、支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちとともに、いのちの大切さを考えていただきたい、という想いで始まった、「産休サンキュープロジェクト」。本号にお寄せいただいたメッセージを拝見し、今後も皆様のご協力を賜りながら、多くの方の想いを繋げていきたい、と改めて思います。



小幡様から贈られたポンチョを着てニコニコ

<http://www.rosemallows.co.jp/poncho/>



「幼い命を救うために知っておきたいこと」

～乳幼児の脱水について～



子どもは脱水症になりやすいといわれています。
それはなぜでしょう？



人間のからだの半分以上は水分で、血管を流れ、臓器を動かし、からだを保つうえで重要な働きをしています。嘔吐や下痢などで水分が失われると、いろいろな器官や細胞の活動が鈍くなります。血液は濃くなって循環しにくくなり、脳、肝臓、腎臓の働きが悪化し、尿も減ります。

症状として・・・唇がかさかさになり、舌が乾燥し、目がくぼみ、不機嫌になりぐったりします。おしっこが減り次第に意識がぼんやりしひきつけを起こしたりもします。

普段から水分補給は十分に！！ 子どもは特に水分が不足がちになるので、発熱や嘔吐、下痢などの症状があるときは脱水にならないよう十分に水分を補給します。

【情報提供：日本赤十字社東京都支部】

日本赤十字社東京都支部では、一次救命処置をはじめ、子どもの成長・発達と病気や事故予防に関する講習を行っています。お子様同伴で受講していただける2時間ほどの短期講習等もございます。詳しくはホームページをご覧ください。

東京 赤十字

検索



★「赤十字WEB CROSS電子講習室」をご活用ください。

日赤WEBCROSSで検索するか、こちらのQRコードから開いてください（スマホ対応）。

赤十字では、子どもの安全を守る講習をしています。

皆様のご受講をお待ちしております！



産休サンキュープロジェクトに関するご意見・ご要望をお寄せください。特に、ニュースレターの内容については、参加企業・団体の皆様とのコミュニケーションツールとなりますので、ご提供いただける情報、どのような情報がお知りになりたいか、素朴な疑問からご感想まで、是非、皆様の声をお聞かせください。

また、ニュースレターのデータ配信をご希望される方もこちらまでご連絡ください。

日本赤十字社 国際部 開発協力課 産休サンキュープロジェクト担当

電話：03-3437-7089

Eメール：sankyuthankyou@jrc.or.jp

